



留意点 (Points to note)

発見・情報収集(組織で認知) (Discovery/Information collection (organization-wide awareness))

- 些細な出来事たとえわずらわしく、共感的理解に基づき子どもの思いや辛さに向き合う
- 当該児童生徒の安全を第一に考え、当該児童生徒やいじめを知らせた児童生徒を守り通す
- 発見者は、一人で抱え込まずに迅速に担任・学年主任等に報告し、学年で共有する(保護者からの訴えも同様)
- 報告を受けた担任・学年主任等は、迅速に生徒指導担当・支援教育Co等に連絡
- 生徒指導担当・支援教育Co等は管理職に報告する
- 管理職は、対応の方向性を見通しながら、校内いじめ対策ケース会議や必要に応じて対策会議を招集する

校内いじめ対策ケース会議

- その日のうちに会議を開き、組織的に対応する体制を確認する
- 生徒指導担当・支援教育Coは全体の調整を担当する
- 記録担当を決め、記録を蓄積する
- ①いつ ②誰が ③どこで ④誰に対して ⑤どのようなねらいで ⑥どのような内容の聞き取りや指導を行うかを確認する
- 必要に応じて対策会議を開催する
- 状況に応じて区・教育担当に報告する

事実関係の把握

- 多方面からの情報収集により事実関係を把握する
- 「事実関係の把握」と「指導」は、明確に区別する
- 児童生徒のプライバシー保護に配慮しながら、個別にできるだけ同時に聞き取る
- 必ず記録を取り、聞き取った内容を集約して時系列を整理し、必要に応じて再度聞き取る
- 適宜、全教職員で情報共有する

対応・経過観察

- 校内いじめ対策ケース会議で確認した方針に基づき、支援・指導を行う
- 必要に応じてケース会議や対策会議を継続的に実施し、支援・指導後の情報共有と経過確認を行う
- 学校と保護者との連絡を密にしながらか共に経過を見守る
- 児童生徒の人間関係については、学年の引継ぎや小中連携で配慮する
- 組織的対応の検証

確認項目	当該児童生徒の保護者対応	関係児童生徒の保護者対応	当該児童生徒への支援	関係児童生徒への指導	周囲の児童生徒への指導	関係機関や地域との連携
	<input type="checkbox"/> 迅速に状況を伝える <input type="checkbox"/> 学校の対応の方向性の提示 <input type="checkbox"/> 共感的な関わり <input type="checkbox"/> 家庭での見守りの依頼	<input type="checkbox"/> 迅速に状況を伝える <input type="checkbox"/> 学校の対応の方向性の提示 <input type="checkbox"/> 被害拡大防止、今後の調査に向けての協力を依頼 <input type="checkbox"/> 成長支援のための具体的助言	<input type="checkbox"/> 安全・安心な環境づくり <input type="checkbox"/> 最も信頼できる教職員による対応 <input type="checkbox"/> 登下校・休み時間等の見守り <input type="checkbox"/> いじめからの保護・心のケア	<input type="checkbox"/> 相手の立場に立って、辛さや苦しさを想像できる指導 <input type="checkbox"/> 抱えているストレスや不満等と、その背景を振り返らせる指導	<input type="checkbox"/> いじめは許さないという姿勢を示す <input type="checkbox"/> 集団の中の自分の立ち位置を振り返り、正しい行動を考えさせる <input type="checkbox"/> 全教職員で対応し、再発防止に向けた指導を行う	<input type="checkbox"/> 必要に応じて関係機関と連携する <input type="checkbox"/> 多方面からの意見を参考に、具体的な支援策を検討する <input type="checkbox"/> 支援策を児童生徒・保護者に提示する

※簡略でよいので、対応時点での記録をとる 初動から記録をとる 対応することによって記録をとる 日時・対応者・内容を明確にし、随時記録を積み重ねる

※本リーフレットでは、いじめられている児童生徒(被害者)を当該児童生徒、いじめている児童生徒(加害者)と加害に関与した児童生徒を関係児童生徒と記載しています。